

■クーデンホーフ光子(青山ミツ) オーストリアの駐日公使と結婚、夫の国に渡り、伯爵未亡人として、波瀾の生涯。

くーでんほーふみつこ

佐賀の乱・・・1874=

東京市牛込で、佐賀県出身で骨董屋と油屋営む青山喜八三女に生まれる。母はツネ。

父は遊び人で分家させた身であったが、商才あって、店には外国人も立ち寄るほどであった。

明治14年政変1881= 7歳：和風の高級社交場(紅葉館)が開業され、

岩倉具視没・1883= 9歳：

女中として、一時期働くようになる。

帝国憲法発布1889=15歳：

足尾鉞毒始・1891=17歳：[紅葉館]での仕事を辞め、家に戻り家業の骨董屋を手伝ううち、

大本教・・・1892=18歳：来日したオーストリア・ハンガリー代理公使ハインリッヒに見染められて、一緒に暮らし始め、ハインリッヒと函館経由の鉄道で蝦夷旅行後、入籍、実家の青山家を勘当される。

郡司千島探検1893=19歳：東京で、私生児として長男ハンス(光太郎)を出産。ハインリッヒの父がオッテンスハイムの城で死去。

日清戦争始・1894=20歳：続いて、次男リヒャルト(英次郎)を出産。各国の東京在留外人の有志がオペラ「ファウスト」を上演、ハインリッヒがフィストフェレス役で舞台に立つ。これが日本初のオペラ上演とされる。

日清戦争終・1895=21歳：*カトリックの洗礼を受ける(マリア・テクラ)。両家の反対など書類上で認められるまで時間がかかったが、二人の息子(ハンス、リヒャルト)とともに、正式にハインリッヒの妻子として公に認められ、東京府知事あてに結婚届が出される。ハインリッヒの朝鮮半島での虎刈り旅行に同行。

松隈内閣・・・1896=22歳：*渡欧に先立ち、皇居での宮中参賀で拝謁を許され、後日、皇后よりお言葉と象牙製の立派な扇子が贈られ、一生の心の支えとなる。3年間の予定でハインリッヒの故郷ロンスペルクへ向け、家族4人・日本人の乳母2人・侍従のバービックの7名で神戸港から出発。途中、エジプト、パレスチナ、イタリアなどを訪問するため、子供たちを先にやり、法王レオ十三世に謁見。ロンスペルク到着後、プラハ、ウィーンなど各地の親戚に挨拶回りをし、メッテルニッヒ夫人の夜会など多くのパーティーに招かれ、少しずつヨーロッパの生活に慣れていく。ハインリッヒは外交官生活から退官。日本への帰国の時期は不明となったため、日本人乳母2人は帰国させ、唯一の日本人として残る。

政党内閣初・1898=24歳：長女エリザベートを出産。

ピアノ国産化・1900=26歳：次女オルガを出産。

田中正造直訴1901=27歳：三女イダを出産。

無学を補うように子育てのためにドイツ語で独習するほど頑張り続け、

日比谷公園・1903=29歳：四男カール誕生。

日露戦争始・1904=30歳：ついに過労から肺結核におかされ、南チロルのアルコにあるサン・パンクラチウス結核療養所へ。<日露戦争>で日本軍が勇敢に戦っていることに励まされ、回復後、ロンスペルクと似た気候のシュバルツバルトのトットモースにあるヴェーラワルト結核療養所へ移る。

日露戦争終・1905=31歳：一家でシュトゥッカウに移住後、修復の終わったロンスペルク城に戻る。

満鉄発足・・・1906=32歳：*夫ハインリッヒが心筋梗塞で突然死去。遺言状でミツコが相続人・7人の子供の後見人に指定される。親戚から訴訟が起こるもその誠実さと意思の強固さで勝利すると、専制君主の家長へと変身、

アヲヲ創刊・1908=34歳：母ツネ死去。以後、父・喜八に2週間に1度、手紙を書きつづける。子供たちの教育のため、シェーンブルン宮殿に近いウィーンのマキシング通に移住する一方、ウィーン社交界で活躍する華やかな日々を過ごす。

韓国併合・・・1910=36歳：父喜八が死去。

第一次大戦始1914=40歳：<第一次世界大戦>が勃発し、長男ハンス・三男ゲロルフが戦線へ出る間、シュトゥッカウの仮設病院で娘たちと奉仕活動。次男リヒャルトの女優イダ・ローランとの結婚に、親戚とともに反対、勘当する。

民本主義・・・1916=42歳：忠実な侍従バービックがロンスペルクにて死去。

ベルサイユ条約・1919=45歳：

大暴落・・・1920=46歳：次女オルガを供なってウィーン郊外メードリンクへ移住。日本からの要人が頻繁に訪れるようになる。

原敬首相暗殺1921=47歳：昭和天皇がヨーロッパ諸国ご訪問に際して、リヒャルトと謁見。

関東大震災・1923=49歳：<関東大震災>で唯一残った肉親の姉さだも被災して死去。次男リヒャルトが「パン・ヨーロッパ」出版、ヒトラーに命を狙われながらも、欧州統合運動に奔走する。

護憲三派圧勝1924=50歳：脳卒中の発作で、右腕が麻痺し、右足が弱くなる。それ以後、娘オルガが代筆するようになる。

円本時代始・1926=52歳：リヒャルトの提唱で第1回パン・ヨーロッパ会議開催、会長に選出される。プラハの長男に初孫が誕生。

金融恐慌・・・1927=53歳：ハンスの一人娘マリー・エレクタが生まれる。

共産党事件・1928=54歳：ゲロルフの次男ヤコブ誕生。

満州事変・・・1931=57歳：ウィーンで高松宮殿下ご夫妻に謁見。

五一五事件・1932=58歳：竹久夢二らがメードリンクに訪れる。ゲロルフの長女バーバラ誕生。

帝人疑獄事件1934=60歳：<ドルフユス事件>。長女エリザベートは暗殺されたオーストリア首相ドルフユスの秘書を勤めていた。

芥川直木賞始1935=61歳：三女イダ、カール・ゲーレスと結婚。

二二六事件・1936=62歳：長女エリザベートが脳膜炎でパリで急死。

日中戦争始・1937=63歳：ゲロルフの三男ミヒヤエル誕生。

大政翼賛会・1940=66歳：次男リヒャルトがアメリカに亡命。

日米開戦・・・1941=67歳：二度目の脳卒中の発作がおき、没した。

念のため、1919年に老舗ゲランから発売された香水「ミツコ」の名の由来とされることがあるが、ゲランと親交のあった作家ファレルの作品中のヒロイン(日本海軍大将夫人)の名によるもので、関係が無い。